

令和8年度第1回北栄町地方創生推進会議 会議録

日時: 令和8年7月16日(木) 19時00分～20時00分

場所: 大栄農村環境改善センター 2階 大会議室

出席者: 長曾我部会長、小椋副会長、遠藤委員、福住委員、米田委員、金平委員、稲毛委員、生田委員、澤田委員、上栴委員、村岡委員(欠席者: 秋山委員)

事務局: 中野企画財政課長、手嶋政策企画室長

1. 協議事項及び決定事項の概要

(1) 会長、副会長の決定

事務局より、本推進会議の設置要綱に基づき、当初レジュメおよび次第等で「委員長、副委員長」と記載されていた役職名について、「会長、副会長」に訂正する旨の報告があった。その後、今期(任期: 令和8年4月1日～令和10年3月31日)の推進会議の開催にあたり、事務局より、**会長に長曾我部まどか委員、副会長に小椋秀一委員**を提案し、承認・決定された。以降の議事進行は長曾我部会長が務めた。

(2) 令和7年度(期末)まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果測定について

事務局よりレジュメおよび資料1に基づき、令和7年度末(期末)時点における、第2期北栄町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況および施策評価の報告が行われた。

(3) 第3期総合戦略の見直しについて

事務局より資料2に基づき、上位計画である「北栄町まちづくりビジョン」の中間見直しに合わせた第3期総合戦略(令和8年度末～)の改訂方針とスケジュールが提示された。これを受け、各委員から指標の設定や変更に関する活発な意見が提案された。

(4) その他 議題なし

2. 進捗・見直しにおける指標、目標、評価等に関する検討意見（一覧）

当日の進捗状況の点検（資料1）および見直し方針（資料2）を巡り、各委員から出された指標（KPI）、目標、評価手法に関する専門的・実践的な意見は以下の通り。

分野・節	現行指標・現状の課題	委員からの指摘・見直しの方向性（提案）	事務局の今後の対応・検討方針
第1章第1節 農業の振興	【耕作放棄地の面積】 （期末実績：117.3ha＝遅れている） 面積の絶対数のみでは深刻度が伝わりにくい。	面積の絶対数ではなく、全体から見た深刻度を捉えやすくするため、「 全耕作面積に対する耕作放棄地率（％） 」への置き換えを検討すべき。	面積から比率（率）への変更について、検証のしやすさを踏まえ、担当課と調整して見直しの参考にさせていただく。
第1章第1節 農業の振興	【主要品目の単価】 （西瓜・ねばりっこ等＝順調） 単価の上昇は物価高による見かけ上の数値である可能性がある。	昨今の急激な物価上昇に伴う額面変化による「見せかけの順調」を考慮し、 物価上昇率を考慮した実質的な稼ぐ力を測る評価方法 を検討すべき。	単純な販売額や単価だけでなく、実質的な販売量の減少などを見落とさない評価指標のあり方を持ち帰って検証する。
第1章第2節 商工業の振興	【製造品出荷額等】 （基準比で減少＝評価なし等） 深刻なデータが好調な指標と相殺され見えにくい。	製造品出荷額や年間商品販売額、卸売業・小売業従業員者数が大幅に減少している深刻な実態について、商工会員増などで相殺せず、「 弱点 」を厳しく（ 危機的に ） 可視化できるデータ表示 へ見直すべき。	住民や関係者に明確に現状の課題（弱点）が伝わるよう、指標の組み合わせや解説の付記、データのバランスを精査する。
第1章第2節 商工業の振興	【町内企業増設社数】 （奨励金申込件数＝遅れている） 奨励金を申込していない地元の設備投資実績が反映されない。	届出（申請件数）に依存しない、 実際の企業の新設・増設投資実態に即した数字 への指標置き換えを求める。	実態に合わせた数値への置き換えや、把握可能なデータバランス、地域のニーズを反映した指標への修正を担当課と協議の上、検討する。

第 1 章第 4 節 環境・エネ	【再エネ導入量等】 (環境エネルギー施策) 現状の指標がすべてエ ネルギー分野に偏って いる。	環境基本計画の重点目標と 連動させ、脱炭素だけでなく 「ゴミの削減(ゴミを減らそ う)」や「身近な環境保全(み んなで守り育てる)」に関す る住民に身近な指標を 1～2 項目追加すべき。	以前いただいたメールでの 提案等も踏まえ、地球温暖 化(エネルギー)だけでなく、 地域環境に関わる具体的な 指標の追加・見直しを環境エ ネルギー課と連携して検討 する。
第 2 章第 1 節 子どもを産み 育てやすいま ち	【待機児童・婚姻数】 生まれた後の「子育て 支援」に偏り、婚姻世帯 数減少への対応不足。	子育て支援だけでなく、若者 の定着や少子化の根本原 因である婚姻数の減少に対 応する指標や、関係人口を 段階的に定着へ導く指標 も、まちづくりビジョンとの連 携を踏まえ構築すべき。	単純な人口推移だけでなく、 婚姻数や現役世代(20 代～ 40 代)の定住意向、移住・二 地域居住に向けたステップを 示す指標についてもビジョン 改訂と連動して見直しにか ける。
第 2 章第 2 節 教育の推進	【地元帰着意向割合】 意向があっても、実際 に帰ってくる受け皿が あるかどうか、本当に 帰ってきた人がどれくら いあるか。	地元への帰属意識(北栄町 愛)を高める効果や、就職を 受け入れる「産業側の受け 皿(地元就職・採用者数)」と 連動させた指標に発展させ るべき。	学校教育における地域探究 の成果が、実際の地元就職 や産業側の若者採用の実績 にどう繋がっているか、学 校・商工会等との連携指標 について検討する。
第 2 章第 2 節 教育の推進	【地域や社会をよくする ために何をすべきか考 える生徒割合】 目標を下回っている年 がある。	良い取組がされていると感 じているが、取組が数値に つながっていないのか気にな る。	取組と指標との関連につい て整理・検討する。
共通 (進捗管理)	【効果測定全体】 施策実績に対して投下 された税金(投入予算) の検証視点が無い。	どのくらいの予算が投下さ れ、その結果としてどのよう な実績・便益が得られたか を示す「コスト対効果」を検 証するための予算指標を検 討に加えるべき。	予算ベースの単純落とし込 みは実務的に困難な面もあ るが、取り組みの優先順位 付けや透明性の確保に向け て、どのような表現が可能か 持ち帰って検討する。

(4)その他・全体討論(要旨)

各委員より、今後の第 3 期総合戦略改訂、ひいては北栄町の未来に向けた日常の活動課題や住民視点での意見交換(フリートーク)が行われた。主な要旨は以下の通りである。

● 新任委員(学生等)の意見

・農業総生産額が上がっている一方で耕作放棄地が増加しているという、数値の裏側にある大所高所

の議論を聞いて非常に勉強になった。自分が普段参加している公民館の建設など、目に見える形で変化が起きている部分を、若者としてもしっかり見つめていきたい。

● **子育てにおける孤立問題と住民同士のつながりについて**

・北栄町外に住んでみて、新しく子育てをしている現役世代の間では、関わりが薄く、一部で孤立を感じている家庭も見られる。それに対して北栄町は非常に住みやすく、特に昔からの地域の人たちのつながりが強いことに魅力を感じている。

● **関係人口のステップと町の魅力発信について**

・観光客数が過去最高を更新するなど、交流人口は激増しているが、来てくれた人々を町内の消費(店舗や飲食等)に結びつける「周遊の仕組み」がまだ弱い。宿泊施設が不足している中、町内での滞在時間をいかに引き延ばし、地域にお金を落としてもらおうか。

・一足飛びの移住は難しいため、「関係人口」や「二地域居住(デュアルライフ)」などのステップを段階的に構築し、移住定住へとつなげていく仕組みづくりが今後の改訂版には重要となる。

● **住民への「ワクワク感」の伝達と対話の場づくり**

・青山剛昌ふるさと館の新築移転改修や様々な新しい取り組みが進んでおり、住民として「今度は何ができるのだろう」というワクワク感がある。しかし、そうした変化や魅力が一般の住民にはまだ見えづらく、伝わりきっていないのが非常にもったいない。

・今後は、数値の検証だけでなく、空き家活用などの現場で住民が熱心に議論している小さな声を、町がしっかりと吸い上げられるような「タウンミーティング」のような気軽な双方向対話の場を戦略の中に位置づけるべきである。

● **地域の人材紹介について**

・地域探究活動を通じて、生徒が地域に出向き、地域の方も生徒と関わっていただける環境ができていく。地域の人材データベースのようなものがあるとより充実した繋がりができるのではないかな。

2. 今後の予定・事務連絡

次回の推進会議までに、今回の議論で出た指標変更等の意見を事務局が持ち帰り、各担当課と調整のうえ第3期に向けた見直し・改訂案の素案作成を進める。

また、10月の次回第2回会議で突然素案を示すのではなく、その前の段階で事前に書面によるやり取りを行い、「こういう形に修正したが、方向性は合っているか」を各委員へ確認するなどの調整プロセス(丁寧な合意形成)を取り入れる方針を決定した。

・**次回(第2回)推進会議の開催時期**: 令和8年10月(素案の検討)を予定